国際協力特別賞

# 一歩踏み出した未来

神奈川大学附属中学校　２年　青木　那奈

一歩踏み出せば未来は変わる。例えば､道に迷っている人がいたら、教えて助ける。一見当たり前のことを言っているようだが、これは一種のボランティアだ。ボランティアとは自分が他人や社会のために労力を提供する行為で、少しの優しさと一歩踏み出す勇気でできていると思う。

私は幼いとき小さなボランティアをした。きっかけは、美容師さんに髪を切ってほしいと頼んだ時、ヘアドネーションをしてみたらと勧められたことだ。ヘアドネーションとは、31 ㎝以上の髪を切って医療用に使用するために寄付することだ。私は長かった髪をショートほどの長さにするのは抵抗があった。ショートヘアーの自分が思っていたのと違ったら…。そう思うとすごく怖かった。その頃の私は誰かのために頑張ることが幼かったためよく分からず、とりあえずやってみようという勢いで切ってみた。その半年後、ハガキと一緒にかつらの写真が届き、私自身の髪形はあまり気に入らなかったものの、良いことをして満足気だった。

今、医療器具は発達し、バリアフリーもでき、不自由な人も以前に比べると自由になれているように思える。では、世界中を見ればどうだろう？ウクライナ情勢や貧困などの様々な問題がある。私たちは一歩踏み出すことができる余裕のある、恵まれた環境下にいる。そんな私達が無関心であるのはあまりにも身勝手だと思う。だからこそ、私は一歩踏み出し、ボランティアを始めた。

私の住んでいるマンションで髪をバッサリ切る予定だと言っていた旧友３人にヘアドネーションを紹介した自作のポスターを渡した。というのも、マンションの管理人さんに相談はしたもののポスターの掲示を断られてしまったからである。31 ㎝に足りない友人には、髪の毛を 15 ㎝寄付すると、帽子の裾に髪を縫い付けた髪付き帽子や毛付きキャップとして役立てられているものを紹介した。後日、１人からヘアドネーションをしたとの知らせが来た。私がヘアドネーションをしたわけではないが勧めたことで未来が少し変わったかもしれないと思うと、心がパッと明るくなった。

私は、どんな人でも誰かのために一歩踏み出し、ボランティアをすることはできると思う。例えば、町内会の手伝いでごみ拾いをしている時に、「自分は地球のために貢献できていて偉い」と思うことでモチベーションを上げながらやるでもいい。世の中のお母さんたちが買い物に行く際、エコバッグを持っていくようにボランティアを日常化させて､私達が息を吸うことと同じように何か手伝うことができれば､未来は少しずつだが変わっていくと思う。たとえそれが失敗だったとしても、私は誰かのために一歩踏み出したい。